

井藤元希氏

(株)K GRIT 代表取締役社長

レジャーホテルを中心に各種商業施設の内外装工事を手がける建築会社の(株)K GRIT(ケイグリット)。グループ会社でレジャーホテル1店舗と賃貸マンションを経営するなど、千葉県船橋市を本拠に多角的な事業展開を実践している。そうした同社において、2017年に新社長に就任したのが井藤元希氏だ。3年後の2021年に創業100周年を迎える歴史ある会社に新風を吹き込み、いまなお進化・発展を遂げようとしている。井藤社長に、会社経営に対する意気込みなどについて伺った。

「自分が経営トップに立って事業を動かす」と強い思いで父に進言し社長に就任しました



1973年千葉県生まれ。29歳のときに家業の(株)カナガワファニチュアに入社。2017年6月に代表取締役社長に就任するとともに、社名を(株)K GRITに変更。家族は妻と娘1人。

会社名/ (株)K GRIT
住所/ 千葉県船橋市宮本9-11-1
連絡先/ 047-432-4321
設立/ 1921(大正10)年
業務内容/ 各種商業施設の内外装業、不動産業(賃貸マンションの経営・管理、グループ会社(株)カナガワエステートとして)、ホテル業(「HOTEL Lei」の経営・管理、(株)レイとして)

家具の製造、小売店を経て建築会社へグループ会社でレジャーホテル経営も

—長い歴史をもつ会社の沿革について教えてください。

井藤 当社の前身は、1921年に東京・台東区浅草で桐箆筒の職人が立ち上げた「金川タンス店」です。戦後になってから家具の小売をはじめ、「金川家具店」を設立して徐々に店舗数を拡大していきました。当時、浅草にたくさんあった小さなホテルや旅館も重要な顧客だったのですが、納入する客室に家具の寸法が合わないときなどに、家具が収まるよう壁などのつくりを自分たちで直すこともしており、やがて内装業も手がけるようになりました。その後、拠点を千葉県船橋市に移し、「家具のカナガワ」「カナガワファニチュア」と社名変更を経て、2017年7月に現社名のK GRITとなりました。

—社名変更の理由としては。

井藤 以前の「ファニチュア」という社名だと、単に“建築会社に家具を納入している業者”とみられてしまいがちです。ホテルやレストランなど各種商業施設を幅広く手がける建設業としての当社をアピールするために社名を変更することにしました。

—一方で、マンション経営やレジャーホテル経営も手がけられています。

井藤 マンション経営のほうは、いま

から25年ほど前に土地を取得してマンションを建設。(株)カナガワエステートというグループ会社を設立して、不動産事業を展開しています。

そしてそのマンションの隣の敷地に以前からあった古いレジャーホテルを、2013年に買い取り、全面リニューアルを施して「HOTEL Lei」としてオープンさせました。こちらはグループ会社である(株)レイが運営管理を行なっています。

—なぜレジャーホテルを経営することになったのですか。

井藤 それまでに他のレジャーホテルの建築を数多く手がけており、ノウハウももっていましたし、業界の知合いや先輩方からもいろいろとアドバイスを受けながら、レジャーホテル経営を軌道に乗せることができました。

—現在の「HOTEL Lei」の経営状態は。

井藤 最寄駅である京成本線・船橋競馬場駅の周辺はレジャーホテルの集積地ですが、なかでも「HOTEL Lei」は比較的高価格帯のホテルとして打ち出しており、ルーム当たりの月平均売上げが65万円と順調に推移しています。

—グループ会社のなかでレジャーホテルを営むメリットは。

井藤 内装や設備の不具合が発生した場合に、K GRITが迅速に対応できること。いつも万全の状態でお客さまに利用していただけます。また、カナガワエステートのマンション経営において、入居

者向けにハロウィンやクリスマス装飾などの季節イベントを打ち出すことがあるのですが、そのノウハウをレジャーホテルにも応用することで、リピーター確保につながっています。

自ら先代社長に進言して家業を継承社員教育に注力し新たな社風を築く

—17年6月に新社長に就任されました。その経緯を教えてください。

井藤 私は29歳のときに父が経営するカナガワファニチュアに入社して建築業に従事し、その後は不動産事業なども手伝いつつ、「HOTEL Lei」がオープンしてからはその責任者を務めていました。レジャーホテル経営が順調に推移していたので、私としては2号店をオープンしたくて、先代社長である父に相談したのですが、父は堅実な経営姿勢の持ち主で、なかなか承認してくれませんでした。あるとき、そのことをレジャーホテル業界の先輩に愚痴ったところ、「お前は経営者になったことがないから、そんなことが言える。経営者の立場に立てば、軽々しく決断することはできない」と諭されたのです。

私としては大いに反省すると同時に、「やはり自分が経営のトップに立たなければ、事業を大きく動かすことはできない」と考え、父に「代替わりしてほしい」と相談しました。その結果、父は会長職となって私が経営を継承し、社名も変更

したのです。

—社長に就任してまもなく1年。どのような心境ですか。

井藤 非常に楽しいですね(笑)。経営者の立場は、私に合っているのではないかと思います。

社長就任以降、とくに社員教育に力を入れていました。結果として、社員全員が共通の目標を共有できるようになり、社内の雰囲気もすごくよくなってきていますし、会社の業績も目に見えて伸びてきています。

私はどうやら“自分自身が成長して輝く”よりも“他人が成長して輝くためのステージを整える”ことが好きな人間のようなようです。社員にいろいろな役職や仕事を任せて、その人がうまくやり抜く姿を見るのがとてもうれしい。社長になってからは、仕事だけでなくプライベートのことまで相談を受ける機会が増えたのですが、社員一人ひとりの人生に深く関わられることに喜びを感じます。

—「働き方改革」が目される昨今ですが、社員の労働環境についてはいかがですか。

井藤 残業は可能な限り減らしていきたいですし、休日にはしっかり休んでほしい。大きなプロジェクトが終わった社員には1週間くらい休みをとらせるようにしています。

一方で、学びの機会も多くもたせるようにしています。社外での各種研修も積



写真は忘年会の様子。新社長に就任以降、社員と積極的にコミュニケーションを図ることで、社内の雰囲気もよくなり、業績アップにもつながっているという

極的に受けさせるようにしていますし、現場監督クラスの社員を連れて、2年に1回くらいのペースで海外研修旅行にも行っています。最近ではラスベガスの一流ホテルの建築を学んできました。日本国内にいただけではわからない、海外のさまざまな流行を、肌感覚として知ってもらいたいという狙いです。

—井藤社長自身は、休日はきちんととられていますか。

井藤 そうですね。ただ、私はあまり趣味がない人間なので、休日は10歳になる娘と家族で遊びに行くことが多いです。ただ、妻もカナガワエステートで働いているので、家族でいてもいつも仕事の話ばかりで(笑)。娘には申し訳ないなと思います。

まとまった休みがとれるときは、家族

で海外旅行に行くことも多いです。最近ではカナダに行ってきました。妻がカナダからの帰国子女であることから向こうにも知合いが多く、私も以前からカナダに行ってみたく思っていたのです。私と妻は2週間ほど滞在して戻ってきましたが、娘はその後1か月くらいカナダに残りました。

娘は一人っ子なので、小さいうちから他人と共同生活を送る経験をさせてあげたいなと思っています。

—会社としては、2021年には創業100周年を迎えます。

井藤 おかげさまで昨年から建築の仕事も増えているなど、代替わり後も順調に業績は伸びています。節目となる100周年に向けて、ますます飛躍していきたいと考えています。